

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401748		
法人名	有限会社 ベストケアサービス		
事業所名	グループホーム香雪園 1階ユニット		
所在地	〒042-0955 函館市高丘町33番11号		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171401748-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171401748-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

充足した職員体制の確立を目指し、人材紹介や派遣の利用、コロナ禍で制約はあるがハローワークでの企業説明会、就職フェア等へ積極的に参加し、少しずつではあるが、成果が出てきている。  
 中途採用が多く年齢層も幅広いため、指導方法、接遇、ハラスメント等に関する内部研修も定期的に行っている。  
 在籍中の職員も入社してきた職員も、互いに働きやすい環境を作れるよう定期的に面談なども行い、風通しの良い職場作りを目指している。  
 職員の定着率は徐々に上がってきており、勤続3年以上の職員が全職員の半数を超えており、平均勤続年数は5.5年。  
 コロナ禍で夏祭り、敬老会等の大規模な行事を行えない分、利用者の1番の楽しみである「食べること」に重点を置き、美味しいものを摂って頂くこと、食事の時間を楽しんで頂くことを、職員がアイデアを出し合い、今まではなかった新しいメニュー、四季を意識したメニューを考え、朝昼晩の食事だけではなく、おやつにも工夫を凝らすよう努めている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年11月11日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内の高丘地区に位置し、徒歩圏内に大学や小中学校、幼稚園などが点在しており、すぐ近くには紅葉で有名な「香雪園」がある閑静な環境下に立地している。母体法人は、長年介護事業を担ってきたことから、介護の実体と現状を熟知しており、町内にある同系列のグループホーム高丘と共に、地域に根差した住民の信頼に資する運営を実践している。地域からは良好な理解と協力があり、行政や同業者とも協働し、介護の相談窓口として地域高齢者福祉にも寄与している。コロナ禍により、地域交流や外出行事等に制限はあるが、近隣の散策、町内会活動の手伝いや外気浴をするなど、生活全般が楽しく、且つリハビリ効果につながる活動の充実に努めている。利用者や家族の繋がりが支援については、従来からの個別便りや電話の頻度を上げ、面会方法の充実も職員間で検討しながら、生活状況や受診結果、食の楽しみ等、多様な情報発信に努めている。今後も更なる地域との共生・還元への尽力が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛と笑顔」というホームの理念を職員全員が理解、共有し、利用者に愛情を持って接し、笑顔で暮らしていただけるよう努めている。	ホーム理念を目につく場所に掲示し、日常的に共有している。主に申し送りや会議の場で振り返りながら、理念への理解を深めており、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で大規模な行事や運営推進会議を中止している為、町会の方との交流が減っているのが現状である。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、事業所の近況の周知等で、関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様、運営推進会議を中止している為、ホームの取り組みを伝える機会がほとんど無いのが現状である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記同様、運営推進会議を中止している為、外部の方の意見を取り入れる機会が減っているのが現状である。	現在は書面での開催としているが、通例では家族、町内会代表、行政が参加し、定例で開催している。会議では、運営状況やヒヤリハット・事故を報告し、委員からの意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケースワーカーから生活保護を受給している利用者に関する電話連絡が定期的にあり、その際に現状を伝えている。また、市の担当者に事業所の運営等について相談することもあり、その際に情報交換を行っている。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への参加・協力や運営状況や事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催している。指針を作成し、職員同士が声を掛け合い、拘束しないケアに努めている。定期的に勉強会も行い、職員の理解が浸透するよう努めている。夜間以外は玄関の施錠をしないこと等、拘束の無いケアに努めている。	身体拘束適正化委員会を定例で開催している。内容的には現状の介護実体を検証し、不適正ケアの事例検討や拘束の予防方法等々、検討を行いながら拘束虐待等々はあってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催している。指針の作成、定期的な勉強会の開催、外部の研修の参加により虐待防止について理解を深める機会を設けている。利用者に対する言葉遣いやケアの方法について職員同士声を掛け合い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての外部研修がほとんどなく、学ぶ機会が減っているのが現状である。これまで制度を活用するケースはなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項について時間をかけて丁寧に説明し、ご家族の理解、納得を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話でご家族へ近況報告する際に、意見や要望を頂き、可能な限り応えるよう努めている。	面会はガラス越しや玄関先、リモート等、多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開している。電話や写真を添えたお便りで、生活・健康状態について伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会議の前にテーマを決めず自由記載の意見書を提出してもらい、良い意見や提案は積極的に取り入れるよう努めている。	月例のユニット会議や日々の申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日々の努力や勤務状況を把握し、評価するよう努めている。また、現場の要望を汲み取り、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で機会は減っているが、できる限り外部の研修に参加し、レポートなどで職員全員へ伝達研修を行っている。また、定期的に内部研修を行い、知識の習得や技術の向上に繋がるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に、他施設の方と意見交換を行い、サービスの向上に繋がるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や面談の際に、ご本人の不安や要望等を伺うようにしている。入居後も要望等を伺い、不安を感じることなく生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に、ご家族に不安や要望等を伺い、可能な限り応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまで担当していたケアマネジャーからの情報、ご本人やご家族の要望等を元に優先すべき支援を見極め、適切なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向を伺いながら、洗濯物たたみ、食事準備、後片付け等行って頂いている。社会の一員として生活しているという実感を持って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、面会は禁止しているが、電話、一言添えた写真の郵送などでご家族に近況報告を行っている。その際に要望等を伺い、適切な支援に繋がるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記同様、可能な限り馴染みの関係が継続できるよう努めている。	コロナ禍で実施困難だが、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に重ねられるように支援し、家族との外出等のひとり一人の今までの暮らしが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特性を考慮しながら、共有スペースでの談話などで良好な関係を保てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去で契約が終了しても、ご家族に電話で近況を伺うようにしている。また、退去された方のご家族からも時々電話があり、交流が続くよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情などからご本人の希望や意向を汲み取るよう努めている。意思疎通が困難な方については、ご家族から要望を伺い、ご本人らしい生活を送れるよう努めている。	終末期を含めた個々の意向や希望の聞き取りに注力している。困難な場合は、家族の意見も参考にしながら本人本位の生活となるよう、申し送りや会議等の場で協議し、可能な限り応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当していたケアマネジャーやご家族からの情報を元に生活歴や生活環境等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、利用者の状態を観察し、申し送り等で伝達し、情報共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から介護に対する意向を伺い、カンファレンス等で職員間で意見を出し合い、介護計画を作成している。	介護計画は、日々のモニタリング成果、職員による気づきに合わせ、家族の意見、要望を聞き取り、個々の介護計画変更・新計画の最適案をカンファレンスの場で協議し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や生活表等に個別に記録し、情報の共有を図っている。カンファレンス等で職員間で意見を出し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医での受診、内科や歯科の往診等、個別のニーズに対応した支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校の児童からカレンダー贈呈等があり、地域の中で暮らしているという実感を持って頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人、ご家族よりかかりつけ医を確認し、希望があれば馴染みのかかりつけ医を受診できるよう支援している。	協力医療機関による訪問診療、訪問看護の連携体制があり、職員は医療的な相談やアドバイスを受け利用者の健康を守っている。また24時間オンコール体制で夜間や緊急時の対応に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、電話やFAXで利用者の健康上の相談を行っている。適切なアドバイスを頂き、早い段階での受診等に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、ご家族と共に医師や看護師、相談員から治療方針や入院期間の見込みについて伺っている。入院中、経過について連絡があった場合は、ご家族へ報告を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族にホームでできることを説明し、理解をして頂いた上で、最期までホームでの生活を希望される場合は、主治医とご家族を交え、看取りケアの契約を結んでいる。	契約時に事業所の方針を説明し、状態変化に応じて協力医療機関、家族と終末期を支えるための話し合いを行っている。職員は定期的な意向を聞き取り、本人と家族の希望に寄り添うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修で急変時の対応について学び、研修資料やレポートで全職員へ周知を図っている。ただし、定期的な訓練は実施できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。南北海道GH協会のブロックごとの災害時連携体制の整備、町会との防災協定の締結など地域との協力体制を確立している。	火災を想定した防火訓練を定例で実施している。地域町内会との協力体制、役割も含め、話し合いを行い、備蓄品や暖房器具も確認しながら、不意の災害に備えている。	自然災害に関する避難訓練内容のさらなる充実と家族、関係者への避難場所の周知が検討されている。計画の進展に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者とのコミュニケーションをとる際は、言葉遣いや表情に気を付けている。また、個人的な情報を口外しないように十分注意している。	職員は利用者の人格・個性の尊厳を介護の基本と捉えて、いかなる時もその尊厳を損なうことない介護に専念している。定期的な接遇やケア手法等の見直しの機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気を作り、利用者が自分の意志で物事を決定できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活習慣や生活のペースを尊重し、過ごしやすい環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、ヘアスタイル、服装等ご本人の意思を尊重し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や咀嚼、嚥下状態を考慮し食事を提供している。嗜好に合わない際は、代用メニューを提供し対応している。また、ご本人の参加意思を確認した上で、軽作業の食事準備、後片付け等を行って頂いている。	利用者の希望を取り入れ、季節感を大切にしたい食事を心掛けている。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。テイクアウトや出前なども取り入れ、外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好や咀嚼、嚥下状態に合わせ、食事をおいしく安全に摂取できるよう支援している。また、必要に応じ、主治医や訪問看護師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前に口腔ケアを行って頂き、口腔内の清潔を保つことができるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや介助を行っている。また、排泄用品メーカーの担当者にアドバイスを頂きながら、個々に合った排泄用品を提供できるように支援している。	職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有し、個々のトイレでの自立支援に取り組んでいる。衛生用品のサイズ感等、定期的に身体に合ったものに見直す機会を設けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や水分補給により、できる限り下剤を使用せずに排便が促されるよう支援している。また、権世に応じ、主治医や訪問看護師からアドバイスを頂き、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り個々の希望時間に入浴できるよう支援している。介護度の重い方は、職員が複数名で介助し入浴して頂いている。	個々の希望、状態に合った入浴を心掛けている。無理強いすることなく、時間や担当者に変化をつけ、好みの入浴剤を使用する等、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室以外にリビングのソファでくつろいだり、休息できるようにしており、個々のペースや状態に合わせた環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴り、常に確認できるようにしている。また、薬の準備や与薬時は日付、病院名、名前等を職員同士が声を出して確認を行っている。不明点がある場合は主治医や薬剤師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や興味を把握し、個人や利用者同士で楽しめる時間を作るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、受診、近所の散歩、ドライブ以外の外出はほとんどできないのが現状である。	全体での外出行事は自粛しているが、個別に声掛けし、周辺の散策をしている。日常生活に運動を取り入れたり、敷地内で外気に触れる等、職員は利用者の気分転換や筋力低下防止の体操、レクを行うことで心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が預金通帳を預かり、ご家族と相談した上で、個々の希望や能力に応じて金銭の使用ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるよう希望に沿った支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ち、快適に過ごして頂けるよう室温や湿度に気を配っている。リビングや廊下の掲示物は毎月貼り替え、四季の移り変わりを感じて頂けるよう努めている。	共用空間は程良い広さで、温・湿度や換気、テレビ音や照明、眩しさも個々の様子を見て都度、調整している。清潔に配慮し、壁や天井に季節の装飾を掲示し、落ち着いてゆったり過ごせるよう、それぞれの心地よい居場所感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや事務所にソファや椅子を置き、一人でゆっくり過ごせる場所や仲の良い利用者同士で思い思いに過ごせる場所作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や小物、ご家族やペットの写真等を持ってきて頂き、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。	本人の安心できる環境を整えるために、入居前の自宅の様子を理解し、動線やベッドの配置を検討している。思い入れのあるものが持ち込まれ、家族写真や趣味の物を手元に置いて、自分らしく安心して暮らせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりを設け、できるだけ自立した生活を頂けるようにすると共に、クッションフロアになっており、安全面にも配慮している。		